

新基地建設反対名護共同センターニュース

“違法工事は直ちに中止せよ！”



7月9日のゲート前。うるま、沖縄、那覇、西原など各地島ぐるみから110人ほどが結集しました。午前8時55分、作業車が到着。9時、機動隊員数十人が出てきて5分ほど県民と対峙しました。県民は基地に向かい「違法工事は直ちに中止せよ!」、「新基地の予算をコロナ対策に回せ!」などシュプレヒコールを上げます(写真)。司会者のヘリ基地反対協・仲本興真事務局長が「コロナ禍なので、説得で移動させるよう」機動隊中隊長に要請します。県民の多くは自主的に移動しますが、少しでも工事を遅らせたい思いから梃子でも動かない人も。結局、作業車が基地内に入り始めたのは、9時半ごろになりました。

夏本番を迎えても県民の不屈のたたかいは続きます。

新基地の予算をコロナ対策へ回せ!

違法な埋め立てと護岸補強工事強行

防衛局は軟弱地盤がある大浦湾側の工事はほとんど手を付けられません。しかし、辺野古側の埋め立てと護岸をテトラポットなどでの補強やかさ上げ工事を強行しています。7月6日は、弾薬庫下のK9護岸で安和鉱山から海路で運んだ違法な赤土を大浦湾で台船に移し替え、台船から何台ものトラックに積み替えて辺野古の海を埋め立てていました。海上チームは抗議船とカヌーから抗議活動を展開しました。(写真はヘリ基地反対協提供)



↑カヌーチームを曳航する抗議船。→K9護岸で赤土を台船からトラックに積み込む作業。



歴史に向き合わない安倍政権

内田弁護士がミニ講演②

東京の内田雅敏弁護士(写真)が9日、テント村で「安倍内閣はなぜ歴史に真摯に向き合わないか」と題して、2回目のミニ講演を行いました。

大阪で沖縄連帯・支援の創作曲を歌いつづけます

間もなく300号迎える
本ニュースへのメッセージ
その①

300号記念おめでとうございませう!

現地の状況がリアルタイムで解り、毎期待して配信を待つております。沖縄と本土の温度差が大きく、センターニュースは、貴重な情報として財産だと思えます。

ニュースの紙面に沖縄で出会った人々の顔が浮かび、涙して読むこともあります。

「あきらめない」「あきらめない」
今日までの継続に感謝と連帯を新たにします。

奇遇にも、我が団の創立と同じころからの発信かと思えます。

毎年の沖縄連帯ツアーでは、

貴重な学習や現地のお話も聞け、

参加者はより身近に沖縄を、基地問題を感

じて帰ります。

ニュースにも載せていただき、ありがとうございます。なんといいっても、昨年実施できた「辺野古テント前コンサート」です。沖縄連帯支援での体験から生まれた創作曲を通じて、今後も沖縄の現状を伝えたい!

今年も合唱団のツアーは予定してありますが、新型コロナウイルス関連で不透明な部分がありますが、実現したいと思えます。皆様、体調に留意されますようお願いしております。

大阪・ちばりよく沖縄合唱団
小野寺芳子

